

『Hi, friends!』に基づいた単元ごとのリスニング教材の 開発とその運用

—指導と評価の一体化を目指して—

内山 寿彦 (UCHIYAMA Toshihiko)

新潟県上越市立清里小学校

要約

本実践は、小学校への教科としての英語の導入を視野に入れ、N 県 J 市の学校教育研究会外国語部会が作成した『『Hi, friends!1,2』リスニング教材』についての作成過程を提示する。作成したリスニング教材を実際の授業実践で活用した。そして、実際にそのリスニング教材を授業後に運用した事例を述べる。そのリスニング教材について難易度の観点からリスニング教材を検証した。それぞれ 5 年生と 6 年生に分けて結果を示し、指導と評価の一体化を目指すことをねらいとした。

(キーワード：小学校英語教育, Hi, friends!, リスニング教材)

1. はじめに

2020 年度に小学校への教科としての英語の導入が決定され、国や行政、学校現場といった様々な場で教科化を見据えた動きが本格化してきている。市単位で行われている研修や British Council の伝達講習である英語教育中核者研修等がその具体的な内容として挙げられる。著者が勤務している N 県 J 市は、小学校英語を見据えた取り組みを使用としている。J 市学校教育研究会が編成されて、将来の小学校英語の取り組みをしている。

J 市学校教育研究会外国語部会（以下、外国語部会）についての詳細を記述する。J 市では、市内の全小中学校教員が、自分の担当する校務分掌をもとに部会を選択する。J 市全体で集計した後、どの部会に所属するかが決まる。その後、部会ごとに小委員を置き、研究に当たる。研究テーマについては、各部会に一任されており、市単位で各教科・領域についての研究を深める。外国語部会では、J 市立 T 小学校校長が部長となり、その下に 5 つの中学校区から 2 名ずつ、計 10 名の幹事となって運営することとなっている。

外国語部会の 2014 年度の研究概要は、「素地」から「基礎」へとつなぐ「バトン」

を重視した小学校外国語活動及び中学校英語教育の指導の工夫である。その達成のための研究内容は、

- ①小学校外国語活動の公開授業参観
- ②中学校に円滑に接続する外国語活動の有効なリスニング教材づくりについて
- ③教科化を意識した具体的な外国語活動の授業づくり
- ④中学校英語授業の公開授業研究

という 4 点が示されている。本実践は、②に焦点をあてる。

2. 「外国語活動の有効なリスニング教材づくり」について

2.1 ねらい

J 市内児童の実態（中学校区での実態）に応じたリスニング教材を作成することを目的とした。また、特に重視されている小中学校間の外国語指導を円滑につなぐツールとしての機能をもたせることも考慮した。例えば、中学校へ送る 6 年生の資料の中にこのリスニング教材の結果が含まれていれば、ある中学校区における小学校間の指導や学びの差、あるいは中学校新 1 年生全体のリスニング力の把握等に役立つものであると考えられる。

また、石濱ら（2015a, 2015b）は、『Hi, friends!1』と『Hi, friends!2』に準拠した聴解力テストを開発し運用した際に、35 時間の外国語活動での到達度を評価することに適しているであろうとした。更に、指導と評価の一体化を目指すのであれば、評価を單元ごとにした方がよいと考えられるであろう。一年後の到達度テストを細分化して、單元ごとに作成することをねらいとした。

外国語研究部会長によれば、「どんな子でも分かる簡単な問題にしてほしい。教員の負担減のために問題数も 5～10 問程度とする。」ということ提案された。そして、完成したリスニング教材は、各小学校で 2015 年度での活用を目指すこととした。

2.2 教材作成に当たって

2.2.1 リスニング教材作成の実際

2.2.1.1 教材作成のヒントを担当に示す

リスニング教材の作成に当たっては、著者が各担当にアイデアを示し、そこから問題作成に当たってもらうこととした。そこで、直接、『Hi, friends!1,2』から画像を取り込む方法を提示することとした。現在の小学校外国語活動において、児童は挿絵を拠り所として、単語を獲得している。つまり、リスニング教材を解く際にも、挿絵に○を付けたり、線で結ぶ問題がふさわしいと考えられる。またそこで用いる挿絵は、できる限り見たことがある絵、すなわち、『Hi, friends!1,2』に出てくる絵をそのまま使用するのがよいと考えた。また、同様の理由から、問題文に関しても、『Hi, friends!1,2』に出現する問答を使うことが望ましいと考えられる。なお、この件に関しては著作権の問題があった。そのため J 市教育委員会指導主事より文部科学省に連絡をし、画像使用について、広く頒布しないのであれば使ってもよい、という確認をとり使用許可

を得た。

2.2.2.2 作成の役割分担

リスニング教材作成の役割分担は，原則として中学校区の小委員がペアを組み，聴解力の内容を作成することとなった。主として，小学校小委員が問題と問題文，解答を作成し，中学校小委員がアドバイザーとなって正しい文になるよう，英文の修正をした。その後，J市採用のJET プログラムを受けた ALT2 名による音声の録音を実施し，著者がリスニング教材データ CD-ROM と音声 CD を小学校へ各 53 枚，中学校へ各 23 枚作成して完成した。

2.3 リスニング教材作成から見える問題の難易

前出の通り，リスニング教材の問題作成は，各委員に任せられていた。すべての単元の問題が集まった時に，問題の難易度について，一定の傾向が見られた。その傾向を以下に載せる（表 1）。

表 1 リスニング教材における問題の難易度

| 問題の系統 | 難易度 |
|--|-----|
| ・ 各 Lesson に登場する単語（名詞，あるいは動詞）を答えさせる問題 | 易 |
| ・ 上記の単語を複数理解したうえで正答に行きつく問題 | ↓ |
| ・ Yes or No または 5W1H (what, when, where, (why, How))を答えさせる問題 | 難 |

最も正答しやすい問題は，各 Lesson に登場する単語（名詞，あるいは動詞）を答えさせる問題であろう。例えば，『Hi, friends!1』の Lesson 4 に出現する「果物（食べ物）」「動物」「スポーツ」といった言葉を答える問題が該当する。

また，作成した問題の系統として，単語を複数理解したうえで該当する回答になるように問題が考え出された。これは上記の問題よりも難しさが増していると考えられる。動物の種類と数という 2 つのことに答えなければならないためである。具体的には，『Hi, friends!2』の Lesson1 において，「何の動物が何匹いるか」を答える問題がそれに該当すると考えられる（図 1）。

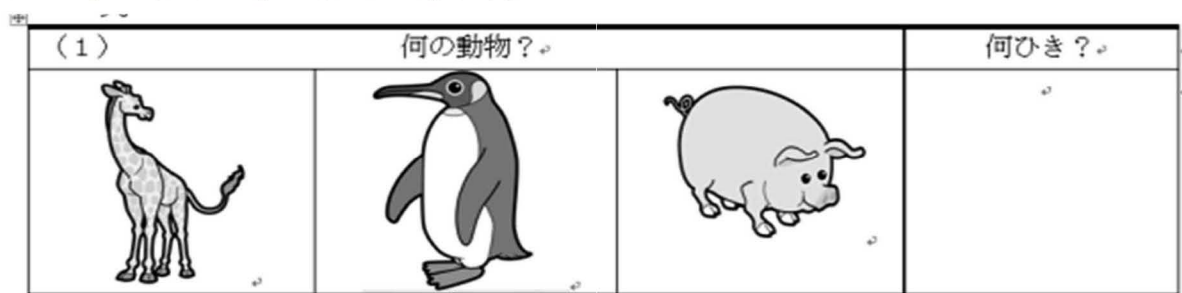


図 1 『Hi, friends!2』 Lesson1 リスニング教材の問題

最も難しい系統の問題は，Yes or No または 5W1H (what, when, where, who, (why,

How)) を答えさせる問題だと考えられる。具体的には、『Hi, friends! 1』 Lesson 9 における誰がどのメニューを注文したか聞き取る問題が当てはまる (図 2)。

《問題》次の英語を聞き、だれがどのメニューを注文しているか、名前を書きましょう。注文をする人は、さくら、きよこ、まさる、ともや、さゆりの5人です。


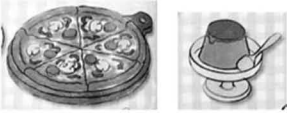
| | |
|---|--|
| <p>(1)</p>  <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div> | <p>(2)</p>  <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div> |
|---|--|

図 2 『Hi, friends!1』 Lesson 9 リスニング教材の問題

4. リスニング教材の運用の実際

以上の過程を経て、リスニング教材は完成した。その運用については、各学校に一任されているところである。では、このリスニング教材はどの程度信頼がおけるものとなったのだろうか。それを検証するために、実際に単元学習後にリスニング教材を参加者に解かせてみることにした。

4.1 調査の方法

4.1.1 参加者と調査時期

参加者は N 県にある公立 K 小学校 5 年生 28 名、6 年生 30 名であり、調査は、2015 年 6 月から 10 月に実施された。

4.1.2 調査内容

調査内容は、前出の N 県 J 市学校教育研究会外国語部会で作成したリスニング教材にある『Hi, friends!1』 Lesson 3 (後述図 3)、及び『Hi, friends!2』 Lesson 2 (後述図 5)、同 Lesson 3 (後述図 7) を用いた。

4.2 分析方法

まず、リスニング教材 1 問ごとの正答率を示し、そのような結果となった原因を、問題内容を吟味した上で考察する。その後、各リスニング教材の単元ごとの信頼性係数を示すことにした。

5. 分析結果と考察


5.1 5年生の結果

まず、実際に用いたリスニング教材を以下に示す。(図 3)

Lesson 3 いくつありますか？

5年 組 番 名前

次の会話を聞き、正しければ○、まちがっていれば×を書きましょう。



① ()

② ()

③ ()

④ ()

次の会話を聞き、正しければ○、まちがっていれば×を書きましょう。

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| ① T : How many apples ? | S : Five apples. |
| ② T : How many cats ? | S : Four cats. |
| ③ T : How many lemons ? | S : Six lemons. |
| ④ T : How many baseballs ? | S : Eight baseballs. |

図 3 『Hi, friends!1』 Lesson 3 リスニング教材

表 2 『Hi, friends!1』 Lesson 3 リスニング教材の正答率

| 解答 | ① = ○ | ② = × | ③ = ○ | ④ = × |
|---------|-------|-------|-------|-------|
| 正答率 (%) | 96.4 | 89.3 | 67.9 | 89.3 |

問①から④までの正答率は、表 2 の通りである。問③のみ、正答率が 67.9%と他の問題に比べ低くなっている。これは、lemon と melon のリスニングを間違ってしまったことが考えられる。

次に『Hi, friends!1』 Lesson 3 リスニング教材における得点の分布を示す (図 4)。このリスニング教材の信頼性係数は、($\alpha = .455$) であり信頼性はなかった。

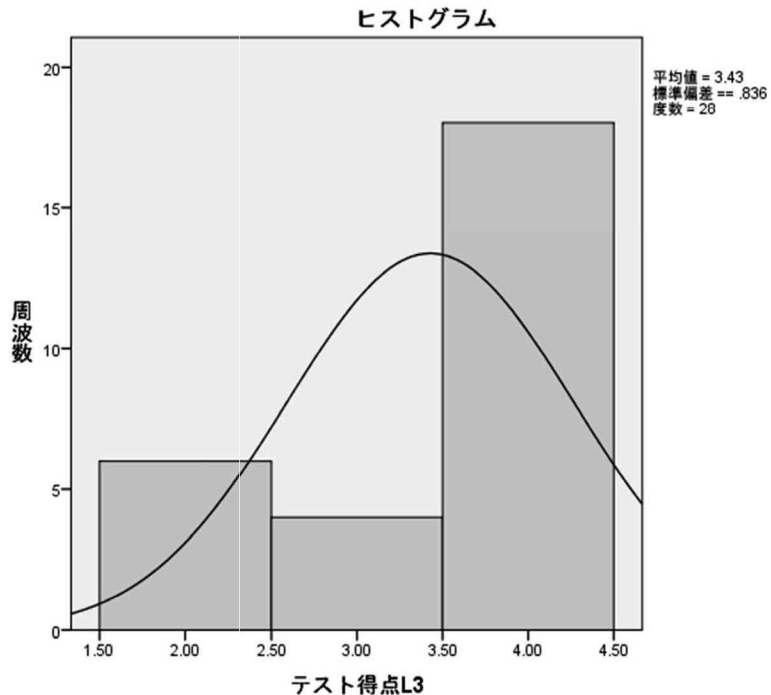







図 4 5 年生 『Hi, friends!1』 Lesson 3 の得点の分布

5.2 6 年生の結果

5.2.1 『Hi, friends!2』 Lesson 2 リスニング教材の結果

まず、実際に用いたリスニング教材を以下に示す。(図 5)

●英語を聞いて、だれのたん生日がいつなのか、線で結びましょう。

| | | | | |
|---|---|---|--|---|
|  |  |  |  |  |
| Sakura | Masaru (さくらの祖父) | Kiyoko (さくらの祖母) | Tanaka (田中先生) | Taku |
| ● | ● | ● | ● | ● |
| 6/12 | 11/15 | 8/10 | 3/18 | 6/30 |

田中先生 :Sakura, when is your birthday?
 さくら :My birthday is March eighteenth.
 田中先生 :Taku, when is your birthday?
 たく :My birthday is November fifteenth.
 Tanaka sensei, when is your birthday?
 田中 :My birthday is June thirtieth.
 さくら :My grandfather's birthday is in June, too.
 田中 :When is your grandfather's birthday?
 さくら :It's June twelfth. And my grandmother's birthday is August tenth.

図 5 『Hi, friends!2』 Lesson 2 リスニング教材

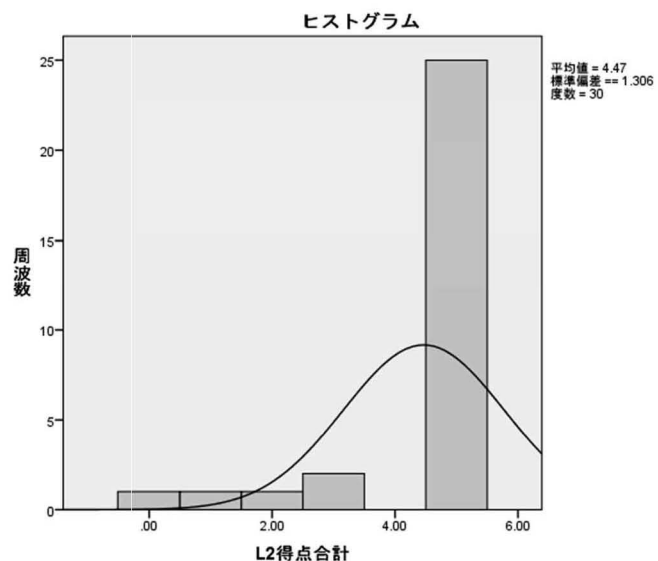
表 3 『Hi, friends!2』 Lesson 2 リスニング教材の正答率

| 解答 | さくら | たく | 田中先生 | 祖父 | 祖母 |
|---------|--------|---------|--------|--------|--------|
| | = 3/18 | = 11/15 | = 6/30 | = 6/12 | = 8/10 |
| 正答率 (%) | 93.3 | 93.3 | 83.3 | 83.3 | 93.3 |

『Hi, friends!2』 Lesson 2
 リスニング教材の正答率は表
 3の通りである。このリスニ
 グ教材は、全ての問題が高い
 正答率となった。これは問題
 自体が線を結ぶ択一式であり、
 場合によっては消去法が可能
 なことと、参加者が、聞き取
 らなければならない「何月何
 日」の部分に正確に聞き取る
 ことができた結果だと捉える
 ことができるだろう。

最後に『Hi, friends!2』

Lesson 2 リスニング教材におい
 図 6 6年生『Hi, friends!2』 Lesson 2 の得点の分
 る得点の分布を示す。(図 6) このリスニング教材の信頼性係数は ($\alpha = .898$) であり
 信頼性はあると言える。



5.2.2 『Hi, friends! 2』 Lesson 3 リスニング教材の結果

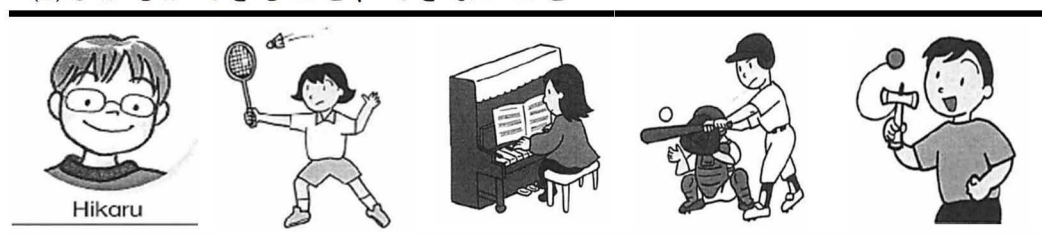
まず、実際に用いたリスニング教材を以下に示す (図 7)。

●英語を聞いて、○か×で答えましょう。

(1) あいができること、できないこと



(2) ひかるができること、できないこと



2. この単位では、下の□と○とでは、「できる」を伝える言い方がちがって
いました。どのようにちがうのか下に書きましょう。

(わかる人は、その使い分け方も書きましょう。)



問題文

英語のスピーチを聞いて、それぞれのことができるか、できないかを○か×を付けて答えます。例としてようこのスピーチを聞いて答えましょう。

(1) Ai

Hello, I'm Ai. I can play soccer. I play the recorder too.
But I can't play basketball. And I can't ride a unicycle.

(2) Hikaru

Hello, I'm Hikaru. I can play badminton.
But I can't play the piano and play baseball. I can play *Kendama* very well.

2

解答例

・プレイがつくものとつかないものに分かれている。

・使い分け・・・球技はプレイがつくことが多い。

図 7 『Hi, friends!2』 Lesson 3 リスニング教材

表 4 『Hi, friends!2』 Lesson 3 リスニング教材の正答率

| 解答 | Ai | | | |
|---------|---------|-----------|-------------|-----------|
| | Soccer○ | Recorder○ | Basketball× | Unicycle× |
| 正答率 (%) | 100 | 100 | 100 | 73.1 |

| 解答 | Hikaru | | | |
|---------|------------|--------|-----------|----------|
| | badminton○ | Piano× | Baseball× | Kendama○ |
| 正答率 (%) | 100 | 84.6 | 88.5 | 100 |

| 解答 | play の有無判断 | ball を使うことには can が付くという説明 |
|---------|------------|---------------------------|
| 正答率 (%) | 88.5 | 7.7 |

『Hi, friends!2』 Lesson 3 リスニング教材の正答率は表 4 の通りである。まず Ai についての問題では、全ての参加者が can と can't の聞き取りができていたと考えられるだろう。それが Soccer○, Recorder○, Basketball×の問いに対しての正答率 100% の要因になっている。一方で、問題文が And でつながる二文の聞き取りになっており、これに困難を示した参加者は Unicycle×を誤答している。また、Unicycle という単語自体があまり聞きなれないものであったため、聞き取りができなかったことも考えられるだろう。

Can を用いた英文についての設問では、ほぼ全ての参加者が play を使っているか、いないか、といった差に気付くことができていた。これは、実際の授業で play の有無を意識させるような授業展開をしていた効果だと考えられる。一方で、授業で実際に参加者に話した球技では基本的に play が付く、ということについては、ほとんどの参加者が覚えていない結果となった。英語の用法についての異文化理解を促す意味も込めて、この設問を考えたが、文字での標記があったならば、その違いに気付く

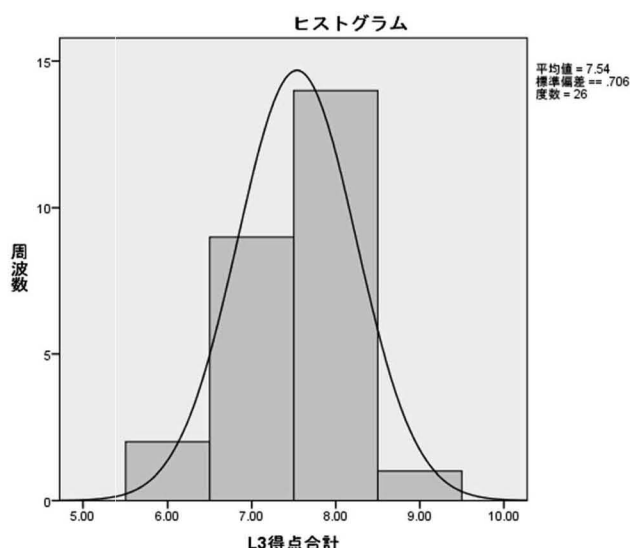


図 8 6 年生 『Hi, friends!2』 Lesson 3 の得点の分布

参加者はもっと多かったと考えられるだろう。聞くこと・話すことが主体の外国語活動では、難しかったのかもしれないので、この設問については再考する必要がある。

最後に『Hi, friends!2』Lesson 3 リスニング教材における得点の分布を示す(図 8)。このリスニング教材の信頼性係数は($\alpha = .047$)であり信頼性があるとは全く言えない。

5. まとめ

本実践で活用したリスニング教材の結果は、単元、あるいは設問ごとに正答率に差が生じた。しかし、授業者が著者自身であるため、その正答率になった理由や原因をかなり正確に検証した。この結果を指導と評価の一体化をねらって実施した場合、教材の正答傾向を授業者が掴んだうえで、補充することで理解が深まると考えられる。参加者がどこを苦手としているか把握することで、次の指導の計画が立てられる。そのような意味から、リスニング教材を用いた教科化を見据えた外国語活動は有効だといえるだろう。

また、リスニング教材の信頼性については、『Hi, friends!2』Lesson2 “When is your birthday?” のみ信頼性が得られた。これは、この教材が挿絵と日付を線で結ぶだけの問題であり、すべて解答できる前提で作られた結果と捉えることができるだろう。だとすれば、今後、このような教材を作成する際には、解答しやすいことを前提とした難易度のテストを用意するのがよいと考えられる。一方で、他のリスニング教材については、信頼性が得られなかった。これらの教材に共通する特徴は、問題作成者の趣向や工夫が問題に入り混み、単元によって教材の難易度が異なっていたことである。学校に即した教材としてふさわしくない場合、このような結果になると考えられる。外国語部会の構成上、仕方がないということもあるが、本教材を再び作成する機会があった時は、『Hi, friends!1, 2』から全リスニング教材の問題や挿絵を活用することを徹底した上で作成に当たるのがよいと考えられるだろう。

最後に、この信頼性を測定するためには、参加者が非常に少なかったことが課題として挙げられる。J 市全体でこの教材の信頼性を調査し、参加者を増やしていくことで、よりよい聴解力テストにしていくことが可能であると考えられる。

引用・参考文献

- 廣森友人(2006). 『外国語学習者の動機づけを高める理論と実践』 東京：多賀出版.
- 石濱博之・渡邊時夫・染谷藤重(2015a). 『『Hi, friends! 1』に準拠した聴解力テストの開発とその応用結果に関する事例報告 (2)』 JES Journal, 15, 18-33.
- 石濱博之・渡邊時夫(2015b) 『『Hi, friends! 2』に準拠した聴解力テストの開発とその応用結果に関する報告』 ARELE, 26, 397-412.
- 文部科学省(2012). 『Hi, friends! 1』 東京：東京書籍.
- 文部科学省(2012). 『Hi, friends! 2』 東京：東京書籍.